

HBMS地域医療経営 プロジェクト研究センター

HBMS COMMONS FOR HEALTH POLICY AND MANAGEMENT STUDIES

研究センター開設記念HbpMSセミナー ④

地域包括ケアシステムと情報技術支援

日時 **12月16日** 13:00~16:00

場所 TKPガーデンシティ
PREMIUM広島駅前
広島市南区大須賀町13-9

募集
100名
参加無料

県立広島大学の専門職大学院経営管理研究科(HBMS, Hiroshima Business and Management School)は、2016年4月に開校した中国地域で初めてとなるビジネススクールです。そして設立時より唱えますヘルスケアマネジメント人材養成を推進する機関としてHBMS地域医療経営プロジェクト研究センター(HBMS Commons for Health Policy and Management Studies)を本年4月に開設いたしました。これを記念して医療政策経営研究セミナーを企画・開催いたしております。第1弾として5月12日に開設記念HbpMSセミナー「医療介護総合確保の中核…地域包括ケアシステムのマネジメントを考える」をご来賓に広島県知事ほかをお招きして広島県庁講堂にて開催しました。そして第2弾は8月26日に広島県医師会会長ほかをご来賓にお招きして「医療・介護の報酬同時改定と医療経営の動向」を本学講堂にて開催し、第3弾は9月8日に広島県薬剤師会会長ほかをご来賓にお招きして「薬局の存在意義から考える薬局経営の原理」を広島県薬剤師会館にて開催し、いずれのセミナーも講師に当該分野の第一人者の方々をお招きしてご講演いただきました。

スケジュール

13:00 開演	栗栖センター運営相談役
13:05 ~ 13:10	ご来賓挨拶
13:10 ~ 13:25	ご挨拶 「地域包括ケアシステムの経営人材養成の必要」 西田在賢センター長 (HBMS教授、ヘルスケアマネジメント分野担当)
13:25 ~ 14:10	基調講演 「地域包括ケアシステムにおける原点と評価システムの展開」 山口 昇 センター顧問 (公立みつき総合病院名誉院長・特別顧問、 前広島県地域包括ケア推進センター長)
14:10 ~ 14:20	休憩
14:20 ~ 15:20	特別講演 「医療・介護のITネットワーク型連携情報システム 『シズケア*かけはし』の取り組み」 岡 慎一郎 (静岡県医師会理事、元静岡市静岡医師会会長) 久保田 徹 (株式会社SBS情報システム常勤顧問)
15:20 ~ 15:55	討議 「わが国の地域包括ケアシステムの進展に向けて」(質疑応答含む)
16:00 閉会	岡野MBA業務推進担当室長



HbpMSとは

HBMS+HPMS (Hiroshima Business and Management School + Health Policy and Management Studies)

医療経営学(Health Policy and Management)の視座から、国による社会保障の重要政策、医療介護総合確保推進に関する研究を行い、その成果をもって広島県をはじめとする全国における医療介護総合確保推進のための制度・政策や事業経営のマネジメントにあたる人材養成の実践につなげる。

お申し込み方法 申込締切:平成30年12月14日(金) 但し、定員になり次第締め切ります。HBMSのウェブサイトにてお申し込みください。



研究センター開設記念HbpMSセミナー ④

地域包括ケアシステムと情報技術支援

地域包括ケアシステムは、1967年に広島県御調町に置かれた国保病院に院長として赴任された山口昇医師が当時既に高齢化が進んでいた同地域の医療整備に懸命に取り組む中で辿り着いた「高齢社会のまちづくり」の最適解であり、半世紀後に国全域で高齢化が進む日本社会の地域づくりを先取りするものでした。そして、山口先生の取り組みは連綿と今も続いており、地域包括ケアシステムの規模すなわちマネジメント単位は学校区で検討することが望ましいことや同システム運営の評価方法についても研究を続けておられます。

さて私は2013年春、前任校の静岡県立大学の医療経営研究センター長時代に、その前年に厚生労働省老健局長として地域包括ケアシステムの法令を出された宮島俊彦氏をお招きして地元の地域包括ケアシステム構築について研究する会を興しました。そしてこのとき、集まった関係者各々が地域包括ケアシステムに寄せる研究関心事について発表しました。この中で岡慎一郎医師(現静岡県医師会理事・医療介護連携担当、元静岡市静岡医師会長)は当時取り組んでいた静岡市内における高齢者の医療・介護を守る市民活動について報告され、また全国に普及する電子カルテの基盤ソフトを開発した実績を持つSBS情報システム幹部の久保田徹氏は地域の医療介護の事業者と住民とを結ぶIT支援システムの構想について報告されました。その後、同研究センターでは厚労省を辞められた宮島氏に顧問をお願いして地域包括ケアシステム構築のための研究を続け、2015年暮れには公開セミナー「地域の医療介護総合確保のマネジメントを考える」を企画開催して、岡医師や久保田氏とともに「安心して退院できるための医療介護需給マッチング支援のITシステム」の試案を発表し、これが地域包括ケアシステム構築に役立つことを説明しました。

あれから3年経った今、このITシステムはかねてより手掛けられていた静岡県内在宅医療のITネットワーク型情報共有システムと組み合わせさせて医療・介護のITネットワーク型連携情報システム『シズケア*かけはし』へと発展しています。

じつは岡医師と久保田氏は同じ学校区で生まれ育った同世代で、静岡市内の地域包括ケアシステムの構築そして静岡県内全域における同システム普及にかける熱意は、他所のITシステム開発の試みに負けずとも劣らないものと思います。このたびは両氏から静岡で展開される『シズケア*かけはし』の開発・普及の取り組みについてご報告いただきます。

そしてセミナー冒頭では、当プロジェクト研究センターの顧問で、わが国の地域包括ケアシステムの創出者であります山口昇先生に基調講演をいただきます。そして岡先生、久保田氏から『シズケア*かけはし』の取り組みについてお話を伺った後に、山口先生のご意見やフロアからの質問を受けてのディスカッションをいたします。

医療介護に従事される関係者や関連のサービス事業者の方のみならず、地域包括ケアシステム構築促進の任にあられる県内自治体の皆様にも本特別企画へのご参加をご案内申し上げます次第です。

2018(平成30)年11月吉日

HBMS地域医療経営プロジェクト研究センター長 西田 在賢